

津田先生の思い出 統三叔父にそっくりな先生

齊藤 孝

私は今年で70歳になり、中央大学を定年退職しました。この歳になりますと、遠い昔に巡り会った人々を懐かしむことも多くなります。紅葉も終わり晩秋の新雪を頂く立山連峰を眺めていると、山登りが大好きだった統三叔父を思い出しました。60年前に亡くなった私の父親の兄です。富山県で厚生医療の仕事をしていた医者でした。書物が大好きで物知りでしたから、私は子どものころから統三叔父に会うことが楽しみでした。連れて行ってもらった映画ポップホープ主演の「底抜け二丁拳銃」という題名だったと思います。その中でバツテンポーと聞こえる歌をよく覚えています。

統三叔父の顔は、丸い小さい目がくぼみ、茶色でした。まるでダニーケイのような外人顔でした。やや早口で、せっかちでしたがいつも笑みを浮かべ、人当たりが良く社交的で、誰からも尊敬された素晴らしい好人物でした。そんな叔父は私にとって誇りであり憧れの目標とした人物でした。

慶応義塾大学に入り、3年生になった時、私は驚きました。統三叔父にそっくりな先生のお姿を見たのです。それが津田良成先生でした。ベージュ色のジャケットを着て、背中を丸められ、早口で話されていました。小太りした体形はポップホープのようでもあり可愛らしい。お顔は外人そのものの風貌です。優しい笑み一杯の目は茶色です。実に統三叔父とよく似ておいでなのです。話し方はまるでアメリカ人のようであり、憧れていたアメリカ文化の香りを感じました。

私は大学院を目指しましたが、学部卒業時にはまだ開設されていませんでした。その間、アルバイトを兼ねて受験勉強のつもりで北里記念医学部図書館に出入りすることになりました。それは津田先生のご支援によるものでした。その時から津田先生のご指導を受けて、私の研究人生が始まりました。

1966年頃に津田先生は、米国国立医学図書館(NLM)とMEDLARSの索引処理を請け負う契約を結ばれました。やがてMEDLARSという情報検索システムを日本に導入するというプロジェクトに発展するものでした。そのプロジェクトに参画できた喜びを私は忘れることができません。情報検索システムというものが自分の手の届くところにあり、その仕組みについてコンピュータを通じて理解できたからです。大学院も楽しかったですが、それにも増して四谷の医学部図書館と東芝電算センターにおける仕事が楽しくて、没頭しました。そのような実績が認められ私は東芝に入社することになり、そこで18年にわたり電算機システム技術部に所属しました。



(愛知淑徳大学開設)

1983年の冬です。それは雪の降る寒い日でした。日比谷の東芝本社のある電ビル裏の喫茶店で津田先生からお話がありました。「先日のこと、名古屋にある女子大の理事が三田の私の研究室に突然訪れた。未知の人であるが、その理事は私に新設学科について相談された。どうやら女子大であるが情報関係の学科を構想しているようである。」津田先生はあの微笑で、気楽にその理事の話が聞かれたと思います。その内に津田先生の先天的な人のよさが留まることなく爆発、相談が依頼になり、さらに開設推進の受託までに発展したようです。結局、津田先生は学科新設の計画、その中心になること、人材スカウトまでも請け負うことになったのです。

その喫茶店で、「齊藤君、コンピュータ教育のプランは任せるから。やってみよう。」と茶色の目を輝かせ、早口でお話になりました。

その翌年1984年春、私は東芝を退職して愛知淑徳大学に行きました。津田先生と過ごせた愛知淑徳大学の7年間は楽しい黄金の日々でした。津田先生の大好きなホテルの最上階で飲むものは決まってジントニック、そして私はドライマティニーでした。いつも最初にお話しになることは先生の誕生とお育ちになられた、古きよき時代のお洒落なご家庭とその環境でした。津田先生の茶色の目、そして斜に構えて話されると暗闇のホテルのバーではまるでフランス名優ジャンギャバンのようでした。話題は政治から女性まで様々でした。「斉藤君、あれはどうも私の好みに合わない。」ただ津田先生は決して卑しいという言葉は発せられません。ですが私は同調し、ものすごい暴言を加えて過激に表現しました。その時の津田先生の嬉しそうな顔、ご機嫌になりジントニックの注文が続きました。津田先生はジェントルマンであり、そして女性に対し、心底フェミニストでした。津田先生にとって、いかなる女性もマドンナでした。

津田先生は、あの柔和な微笑みと甲高いお声で、統三叔父のように私を見守ってくださいました。学部始まり大学院、北里医学図書館、慶応義塾大学そして愛知淑徳大学まで40数年も津田良成先生と御一緒に働けました。光栄であり幸福でした。津田先生の大好きだったドライマティニーとジントニックを不滅の美酒として、これからも大切に飲みます。